

令和 3 年度

各務原市福祉推進校活動報告集

社会福祉法人 各務原市社会福祉協議会

目次

学校名	ページ数
那加第一小学校	1
那加第二小学校	2
那加第三小学校	3
尾崎小学校	4
稲羽西小学校	5
稲羽東小学校	6
川島小学校	7
鵜沼第一小学校	8
鵜沼第二小学校	9
鵜沼第三小学校	10
緑苑小学校	11
八木山小学校	12
各務小学校	13
蘇原第一小学校	14
蘇原第二小学校	15
中央小学校	16
那加中学校	17
桜丘中学校	18
稲羽中学校	19
川島中学校	20
鵜沼中学校	21
緑陽中学校	22
蘇原中学校	23
中央中学校	24
岐阜各務野高校	25
各務原特別支援学校	26

～様々な立場の人たちと共生していく社会をめざして…自分たちができること～

<福祉体験活動>



4年生の総合学習で、パラリンピックの正式種目である「ボッチャ」の体験をしました。すべての人の垣根を超えたスポーツ「ボッチャ」を体験し、楽しみながら共に生きていく社会をつくっていく気持ちを育みました。



また、動きづらい装具を付けた高齢者体験、慣れない車椅子体験などを通して、様々な立場の人達への思いやりの気持ちを育みました。

<福祉講話「視覚障がい者と盲導犬講座」「バリアフリー講座」>

視覚障がい者である藤田亜紀さんを講師にお招きして、盲導犬と共に暮らす日常をお話していただきました。また、福祉協議会の方から、生活の中にある障害物を見つけたり、町の中のバリアフリーについて教えていただき、全ての人たちが安全に暮らせる社会について考えることができました。



<見守り隊の方たちとの心温まる交流会>



いつもお世話になっている見守り隊の方へ感謝の気持ちを伝える会が行われました。今年度はコロナ禍のため、6年生の児童が代表して、交流会を行いました。「6年生の子たちが進んで挨拶をするから、小さい子たちの手本になってるよ。」と褒められたり励ましの言葉をいただいたりしました。そして、4年生の子どもたちが書いたメッセージ付きの鉢植えをプレゼントしました。この様子は、全校に zoom で配信され、みんなで共有しました。

<心地よい日常生活につながるボランティア活動>

那加一小の伝統の一つであるボランティア活動。学校では、様々な場面でボランティア活動を行い、勤労や奉仕の心を育てています。この日は、ふれコミ隊の子たちを中心に全校児童からボランティアを募り、地域のボランティアの方々と一緒に、昼休みの花植え活動が行われました。急な呼び掛けでしたが、多くの子どもたちが参加をし、かわいらしい花々で那加一小が一段と美しく彩られました。



また、6年生の「巣立ち活動」では、今までお世話になった学校をきれいにしようと、朝活動の時間を活用して床磨きを行い、汚れたフロアを丁寧に磨いてくれました。

さらに、6年生のキャンペーン活動からスタートした朝の挨拶活動は、キャンペーンが終



わった今でも、6年生のボランティアで続けられています。

登校時に全校が通る場所の両

サイドに並び、爽やかで元気な声が飛び交う挨拶ロードを作っています。6年生から全校に挨拶旋風を巻き起こし、那加一小の挨拶を向上させることができました。



令和3年度 福祉教育推進事業報告

各務原市立那加第二小学校

(1) 高齢者擬似体験（7月）



高齢者擬似体験では、社会福祉協議会の方から使用の際の説明を聞き、体験キッドを使用した。階段では段差での歩きづらさ、階段に上り下りするときの怖さ、小さなクリップを取る際には、思うように力が入らずつかみにくいことの不自由さなど、日常生活の中での高齢者の思いを感じることができた。体験を通して、身の回りの生活を見つめ直し、誰もが暮らしやすい環境にしていくことの大切さを実感できた。

(2) 障がい者擬似体験（11月）アイマスク歩行



アイマスク歩行では、白杖を使用し、点字ブロックの上を歩いたり、目の不自由な方へのサポートをしたりする体験を行った。サポートでは、補助する場、見守る場があることを知り、寄り添いながら活動できた。体験を通して、生活の中でどんなことに困っているのか知り、自分でできることについて考えることができた。

(3) ボッチャ体験（12月）



パラリンピックの正式種目であるボッチャを体験した。障がいのあるなしにかかわらず、すべての人が一緒に競い楽しめるスポーツであると感じることができた。

(4) 高齢者の方の講話（1月）



地域で高齢者のために活動してみえる方から、福祉や高齢者の日常生活についての話、ボランティアハウスでの活動内容などをお聞きした。

地域の高齢者の方々のために、自分たちにもできることはないかと考えることができた。

(5) ふれあい交流会に向けて（自分たちにできることを実践）（2月）



1年間、「普段の暮らしを幸せに」を目標にして学び、自分にできる関わり方を考えてきた。そこで、高齢者、社会、自分たちがつながることができる企画（ふれあい交流会）を企画した。実際には、まん延防止等重点措置の適用中であつたため、ボランティアハウスで利用していただけそうなることを考え、材料を準備した。また、簡単にできる体操などは、DVDに撮って観ていただけるよう準備することができた。

令和3年度 福祉教育活動報告

○福祉について学ぶ



実際に障がいのある方と関わったり、体験したりすることで、自分たちで調べるだけでは分からない貴重な学びがあった。始めは障がいのある人はかわいそうだと思っている子どもも、直接話を聞くことで、自分たちと変わらないことも多いと実感することができた。また、障がいのある方の生き方から自分に活かしたいことについても考えた。

○障がいについて学ぶ



盲導犬ユーザー



介助犬ユーザー



知的障がいについて学ぶ



高齢者疑似体験



車いす体験



アイマスク体験



車いすテニス体験



ボッチャ体験



バリアフリーについて

各務原市立尾崎小学校

1 令和3年度の福祉教育

尾崎小学校では、5年生が中心となって福祉を学んでいる。今年度も、コロナの影響でいろいろな活動や体験が制限された中、まず前半は、障がいの種類別に分かれて調べ学習を行った。そして、コロナが落ち着いた秋に様々な体験学習を行った。それらの学習を通して、児童は、障がいをもつ方の大変さや苦勞、一方で工夫により生き生きと生活されていること、障がい者の方を支える福祉の重要性などについて学んだ。1年間では、次のような学習を行った。

6月	福祉講座「福祉って何だろう。」	11月	聴覚障がいの方から学ぶ（手話体験） 高齢者疑似体験
7～8月	調べ学習 ・高齢者福祉について ・身体障がい、視覚障がい、聴覚障がいについて ・パラリンピックについて	12月	「コスモスの里」の方との年賀状の交流 パラリンピアン藤原由衣選手から学ぶ
9月	車いす体験	1月	福祉学習から学んだこと、提案したいことをまとめる
10月	アイマスク体験 盲導犬について学ぶ 点字サークルの方による点字体験	2月	まとめのプレゼンテーションづくり

2 福祉体験学習

社会福祉協議会の方や障がいのある方をできるだけお招きし、紙面や本では分からないことを体験したり、生の声を聞いたりすることを大切にしたい。その中で児童は、高齢者の方や障害のある方は、自分たちと同じように身体を動かしたり活動したりすることができることと十分できないことがあることを具体的に学んでいった。そしてこれらの学習を通して、児童は福祉の重要性に気づき、福祉とは、「**ふ**だんの **く**らしを **あ**わせに」する営みで、自分たちにできることはたくさんあることを学ぶことができた。



社会福祉協議会の方から学ぶ



パラリンピアン藤原選手から学ぶ



車いす体験



アイマスク体験



盲導犬について学ぶ



点字体験

【児童の学び】

- ・車いすに実際に乗って押してもらうと、知っている友達だけ少し怖かった。だから車いすを押す時は、親切な気持ちだけで押すのではなく、必ず自己紹介をして、相手の気持ちを聞いてから押すことが大事だと思いました。
- ・高齢者体験をした時、いろんな事がすごくやりにくい状態でした。1番つらかったのが階段です。1段ずつしか進めなかったし転倒の危険性もあります。だからこれからは、高齢者の方を見かけたら、できるだけ気にしてあげるようにしたいです。



高齢者疑似体験

令和3年度 福祉教育推進事業報告

各務原市立稲羽西小学校

稲羽西小学校では、4年生が総合的な学習の時間に福祉について学習しています。

福祉って何？（5月21日）



「みんなが幸せを感じるのはどんなときですか。」
「友だちと遊んでいるとき。」「家族にありがとうって言われたとき。」「おいしいものを食べたとき。」幸せを感じる時は様々です。誰もがしあわせに過ごしたいし、幸せになる権利をもっています。

社会福祉協議会の方をお招きして、福祉について考える第1歩の学習をしました。

高齢者疑似体験（5月26日）



おもり、サポーター、軍手、ゴーグル、ヘッドフォンを装着して、高齢者の生活を疑似体験しました。

「ペットボトルのキャップが開けにくい。」「字が読みにくい。」体験したから分かることがありました。

介助犬講話（6月25日）



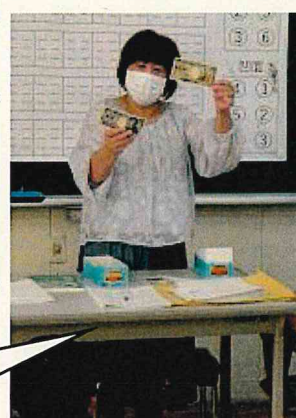
車椅子で生活している方をお招きしてお話を聞きました。現在、岐阜県には1頭しかいない介助犬のマサルくんも一緒にいます。介助犬について教えていただきました。

盲導犬講話（10月26日）



視覚に障がいがある方と盲導犬のバルちゃんを招いて、視覚障がいについて学びました。盲導犬の役割はもちろん、触ると音で時間を知らせる時計や、点字の本など実物を体験させてもらいました。

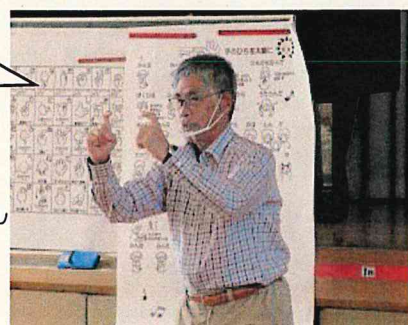
点字体験（10月27日）



点字サークルの方を招いて、点字を教えていただきました。専用の器具を使って点字の打ち方を教わりました。点字で藤田さんへのお手紙を書くきっかけになりました。

手話講話（11月2日）

聴覚に障がいがある方を招いて聴覚障がいについて学びました。聴覚に障がいがあると生活の場面でどんな工夫が必要なのかも教えていただきました。手話の教えていただいて体験しました。



このような体験を通して、福祉（ふだんのくらしをしあわせに）を学んでいます。その根底にあるものは、相手のことを「思いやる」気持ちで、これは稲羽西小学校が先輩から引き継ぎながら大切にしているものです。

令和3年度 福祉教育推進事業 おもな活動の様子

各務原市立稲羽東小学校

80年の伝統をつなぐ「茶摘み」 学校、家庭、地域で守る



今年度も、新型コロナウイルス感染拡大により、実施できませんでした。しかし、昭和16(1941)年から始まった本校の伝統行事をつなぐため、6年生がお茶について他学年の児童に説明し、全学年で茶摘み体験をしました。



車椅子バスケットボール体験

5年生が車椅子に乗り、バスケットボールを体験しました。また、高学年の児童は、自分の可能性を障がいと向き合いながら極めようとする選手の生き方を学びました。障がい者スポーツへの理解を深めました。



花いっぱい为学校に

3年生が、花経営の学習で、校舎南側の花壇やプランターにパンジーの花苗やチューリップの球根を植えました。水やりをして、大切に育てました。卒業式での門出や入学式でのお祝いを、花壇から彩ります。

全校草取りボランティア

全校児童がボランティア活動に積極的に取り組みました。体育行事を前に運動場にはたくさん草が生えていたので、全校で集まって取りました。ボランティアをしたら手帳に記録します。50回達成した児童は、年度末に136人となりました。



高齢者疑似体験

5年生の総合的な学習の時間の授業で、ヘッドホーンや特殊眼鏡、手足のおもりなどの疑似体験装具を装着し、日常生活動作を擬似的に体験しました。高齢者の身体的な特徴と気持ちを理解し、コミュニケーションのとり方を体験的に学びました。



各務原市立川島小学校 福祉教育推進事業

様々な障がいについて理解を深める活動



腕や足にサポーターを付けたり、目にゴーグルをはめたりすることで、体の動きや視界に制限をしながら、階段や坂道を昇降したり豆掴みをしたりしました。そうすることで、一見、健常者と変わらないように見える高齢者の方であっても、辛い思いを抱えているということを実感を伴って知ることができました。



アイマスクや車いすを体験したうえで、盲導犬を利用される方の講話を伺いました。自分たちが体験したよりも大変な生活をしていると実感しました。点字についても学び、身近なところで様々な支援がされていることを知ることもできました。そうした上で、自分に何ができるかを考えることができました。

ボランティアについて学ぶ



地域の方と一緒に「愛校活動」という活動名称のもと、校内の窓を中心に清掃活動をしました。それをきっかけにして、学校花壇の花植えや校内のごみ拾いにボランティアで参加する姿が増えました。この活動は、地域での活動にも広がり、近所の公園のごみ拾いをしたり、通学路の清掃を休みの日に行ったりする子どもの姿にも繋がりました。

ボランティア委員が、全校のよさを互いに見つけ合うことを呼び掛けたり、放送で広めたりする活動にもつながっており、次年度に繋がる動きを生み出すことができました。

令和3年度 各務原市福祉推進校事業 活動の様子

各務原市立鵜沼第一小学校

思いやりの心を育てる取組



4～6年生の児童が、地域の一人暮らしの高齢者へ暑中見舞いや年賀状を、心を込めて書きました。



アイマスクをつけて校内を歩いたり、車いすに乗って段差のある場所を移動したりしました。各活動を通してその人の気持ちや、介助の仕方や接し方について深く考えることができました。

ボランティアの心を育てる取組



チョボラキャンペーンの様子。自分には何か考え、行動に移しました。



校長室前の廊下は、「ボランティア50回」の達成者の名前の掲示でいっぱい。ボランティアの心が高まっています。



ボランティア活動が50回できた児童は、職員室前に星の形の紙を掲示しました。

1 「福祉って何？」オリエンテーション

社会福祉協議会より、細野さん、明生さんに講師として来ていただき、福祉の概要を教えていただいた。

児童の興味関心も高く、これからの学びへの意欲が高まった。



2 高齢者福祉について

高齢者について考える体験

① 高齢者疑似体験



様々な体験活動を通して、高齢の方の不便さや介助の仕方を学び、理解を深めることができた。

3 障がい者福祉について

障がい者について考える講演会、体験



① 視覚障がい者について

② 盲導犬について

③ 介助犬について

④ 知的障がいについて



⑤ 点字について

⑥ 手話について

⑦ 車いす体験

⑧ アイマスク体験

視覚障がいをお持ちの方、盲導犬・介助犬ユーザーの方の話を直接聞くことを通して、その大変さや気持ちを知ることができた。知的障害についてのお話を聞き、優しい気持ちで支え合うことの大切さを学ぶことができた。点字や手話、車いす、アイマスクを実際に体験してみることで、困難な面があることを理解し、自分たちができることを考えることができた。

4 地域のお年寄りとの交流

今年度は、直接関わりをもって交流することはできなかったが、年賀状を書いて交流することができた。返事をいただいた児童もあり、嬉しそうだった。

5 誰もが暮らしやすいまちづくりについて

バリアフリーについて知り、自分たちでできることを考えることができた。



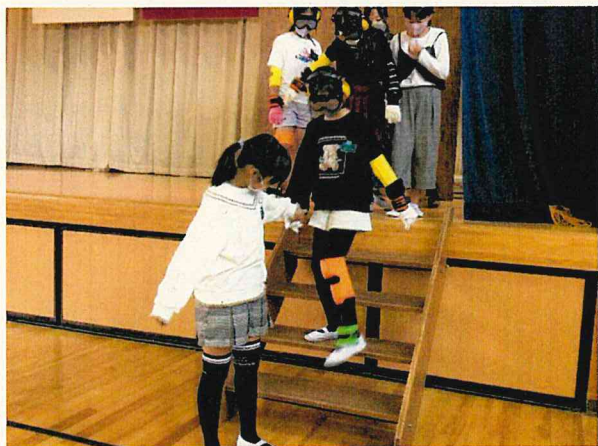
令和3年度 鵜沼第三小学校福祉教育推進事業報告

各務原市立鵜沼第三小学校

地域のボランティアの方々をお迎えし、ニンジンや花の苗植え等の活動を行い、命の大切さとともにボランティアについて学んだ。



5年生は総合的な学習の時間に「高齢者体験」と「車椅子体験」を行い、高齢者や車椅子で生活する方の立場になって福祉を考えた。

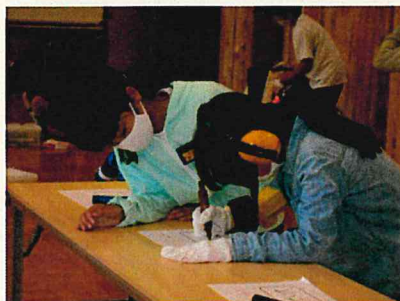


パラリンピックメダリストの諸石光照さんをお招きして、「夢や目標に向かって」と題してお話を聞きました。



本校では、5年生が総合的な学習の時間を中心に「福祉の学習」に取り組んでいる。今年度は、積極的に社会福祉協議会による福祉教育プログラムを取り入れ、多くの講師をお招きし、講演を行っていただいた。直接障がいの状況を見聞きし、実体験を通す中でより深い学びができたと感じている。

【アイマスク・高齢者疑似・車いす体験】



様々な体験活動を行い、不自由な思いや感覚を実感した後、社会福祉協議会の方からボランティア活動についてのオリエンテーションを行っていただき、学びの耕しを行ってから、引き続き、障がいをもつ方々からの講話を聞く計画で学習を進めた。より障がいを身近に感じ、自分たちにできることを一生懸命考えた。

視覚障がいの方（盲導犬）・介助犬・知的障がいに関わる講話



今年度から、講師による講話を初めて取り入れた。子どもたちは、自分が体験したり、調べたりしたことと実際のお話を通して、障がいもつことの厳しさに気づき、自分たちは何ができるかを真剣に学ぶことができた。



環境ボランティア委員会
が、学校の美化・緑化に努
め、花壇整備や草引き等に
計画に基づいて、一生懸命働
き、姿で全校に示した。

1 児童によるボランティアの取組と啓発活動

【あいさつボランティア】



【花植えボランティア】



【落ち葉拾いボランティア】



2 福祉体験（6年生）

【ブラインドウォーク】



【高齢者体験】



【車イス体験】



コロナウイルス感染予防に努めながら、高齢者疑似体験、車イス体験、ブラインドウォークなど様々な福祉体験を実施することができた。これらの福祉体験を通して、障がい者や高齢者の心身の変化を知り、気持ちや思いを考えることで、地域に暮らす人々の日常生活に目を向けたり、考えたりするきっかけとなった。

3 地域との交流

【暑中見舞いはがきの返信】



地域の独居老人の方に「暑中見舞いはがき」と「年賀はがき」を送り、お礼の電話や返信などをたくさんいただいた。

自分たちの活動が地域の方に喜んでいただけていることを実感することができた。

【見守り隊の方へ感謝の会の様子と作成したプレゼント】



4 福祉教育プログラム

【盲導犬について学ぶ講演会】



○児童の感想○

盲導犬と一緒に日常生活を送っているのがすごいと思いました。目の不自由な方や障がいのある方に出会ったときは、自分から進んで声をかけたり手伝いをしたりしていきたいと思いました。

4年生 総合的な学習の時間「福祉教育」の実施

福祉協議会講師の指導や支援を受け、目の不自由な方のために働く盲導犬と実際にふれあったり、点字や手話について話をお聞きし、実際に体験したりすることができた。こうした様々な出会いや体験が、障がいのある方々を支える様々な手立てについて興味や関心をもつことにつながった。



アイマスク体験



点字体験



高齢者疑似体験

福祉美化委員会を中心とした「環境整備活動」

福祉美化委員会では、「掃除」「花の苗植え」等の環境整備に関わる活動を、計画し行った。休み時間にも、各教室の清掃や運動場の雑草抜き、落ち葉集めなど、学校の環境を美しく整えるための活動を進んで行うとともに、全校児童にも呼びかけた。そのため、多くの児童が学校を美しくしようと進んで働く姿が見られた。



校庭の落ち葉集め

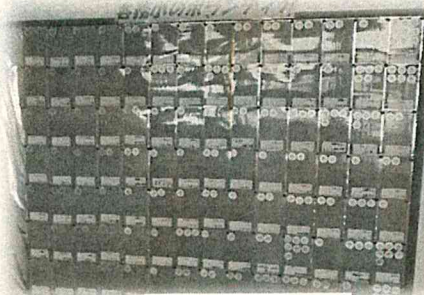


花の苗植え

「ボランティア手帳」での意欲喚起

学校だけでなく、家庭でもボランティアを行う児童が多く見られた。学校や家庭でのボランティアを「ボランティア手帳」に記録し、50冊達成者を教室や職員室廊下前などに掲示した。そのため、ボランティアに進んで取り組む児童が増えてきた。

今後も、児童のボランティアへの関心を高め、より実践できるようにはたらきかけていきたい。



廊下の掲示



教室の掲示

福祉教育推進事業（令和3年度）

蘇原第一小学校

☆福祉体験学習（5年生）



総合的な学習の時間に行った「福祉を考える」の学習では、障がいのある方から直接話を聞いたり、疑似体験をしたりする中で、本当の思いを知ることができた。本やインターネットを使って調べ学習をするだけでは知り得ないことを知ることができた。自分の仕事にやりがいを感じ、明るく活力のある生活をおくる生き方に触れ、児童は自分に何ができるかを真剣に考えることができた。

☆感覚統合・体幹・視覚認知力トレーニング



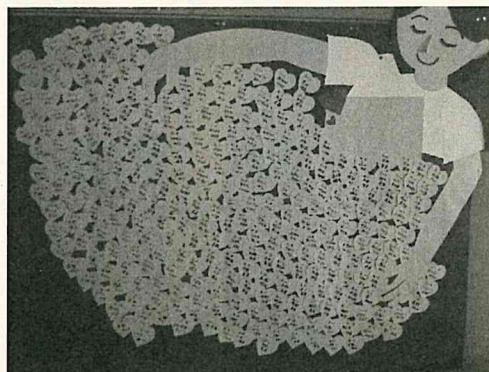
バランスボールや、ピンポン玉や新聞紙等を使って、感覚統合と体幹のトレーニングを実施した。また、マークプレートを活用したサーキットトレーニングを体育授業等に位置付けることで学習や生活の充実に必須の姿勢・筋力・眼球運動のコントロールの基礎を養うことができた。視覚認知力を高め、体験したことと結び付けて話したり書いたりして、自分の思いを相手に伝えられるように支援することで、児童自らが相手を思いやった言動の大切さを実感することができた。

令和3年度 各務原市福祉推進校事業 実施報告書 蘇原第二小学校

＜ボランティア活動＞

福祉委員が中心となって、コロナ禍の状況で、できるだけ分散して、清掃活動や草抜き、落ち葉拾いをしました。参加した子は、ボランティア手帳に「そにっこり」のシールを貼りました。ボランティアの心が広まり、自分から進んでボランティア活動に取り組む児童の姿が増えました。

職員室前の廊下には、ボランティア50回の達成者の名前の掲示でいっぱいです。



＜6年生・総合的な学習の時間＞

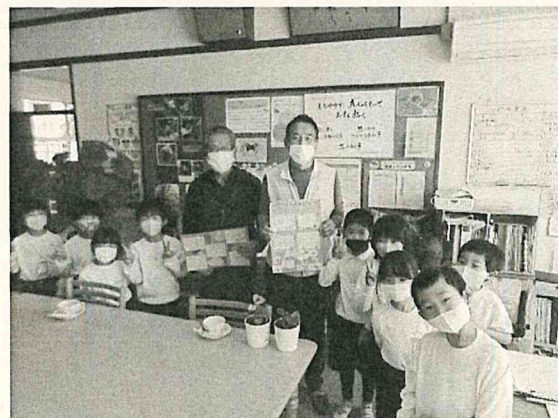
社会福祉協議会の方からの福祉についての講話を聞きました。高齢者の方の視界の悪さや体の動かしにくさを実際に体験しました。また、車いす体験もしました。講話と体験を通して、高齢者の方や身体の不自由な方への理解を深めると共に、身の回りの福祉について学習しました。



＜地域の方との交流＞

1年生がミニミニアクアトで生き物のお世話をしてくださっているボランティアの方や朝の健康観察で消毒ボランティアに来てくださったPTAの方、いつも登下校を見守ってくださっている警察の方に、お手紙とお花をプレゼントして、感謝の気持ちを伝えました。

また、校舎南側の花壇やプランターにパンジーなどの花の苗を植え、玄関や校舎周辺に飾り、学校を明るくしました。





9月アイマスク体験

白杖を使って確かめながら歩くのは不安を感じた。町で見かけたら、力になってあげたいと思った。



11月 視覚障がいの藤田さんから学ぶ

盲導犬を間近で見ることができた。飼い主の命を守っている姿に感動した。藤田さんも盲導犬から元気をもらっていることが分かった。



11月 高齢者体験活動

福祉の学習をするまでは、困っている人がいても、声をかけたくても、勇気が出せない。どんな声をかけていいのか分からないと感じていました。この学習を終えて、もし町で目の不自由な人が困っていたら、今なら声をかける勇気ももてると思う。（感想より）



1月 ボランティアについて学ぶ



1月 聴覚障がい者から学ぶ

1. 福祉施設との交流

1年生が総合学習で「福祉」を学ぶ中で、近隣の福祉施設との交流を企画した。新型コロナウイルス感染予防のため、リースや寄せ植えをつくり、それを福祉施設に届ける間接的な交流活動を行った。お年寄りの方にリースや花を見て和んでいただくことを通して、福祉への関心を高めることができた。



花の寄せ植えとクリスマスリース、ボディパーカッションのDVDをプレゼントしました。お年寄りの方々が少しでも明るい気持ちになってほしいという願いをこめました。(1年生 生徒)

昨年届けた花も、大切に育ててくれていてびっくりしました。今回、届けた花も、長い間咲いてくれると嬉しいです。(1年生 生徒)

施設の方が嬉しそうに受け取ってくれたので、届けることができて良かったなと思いました。(1年生 生徒)

2. ボランティア活動を推進する



今年度も、来校いただいた方に気持ちよく花で出迎えたいとの思いから、校門前や玄関前等、様々な場所に花を植え、水やりや雑草を抜くなどの活動を続けました。

多くの生徒が花植えや、草抜き、落ち葉はきに積極的に参加しました。

ボランティア手帳

50回認証388人

活動の様子

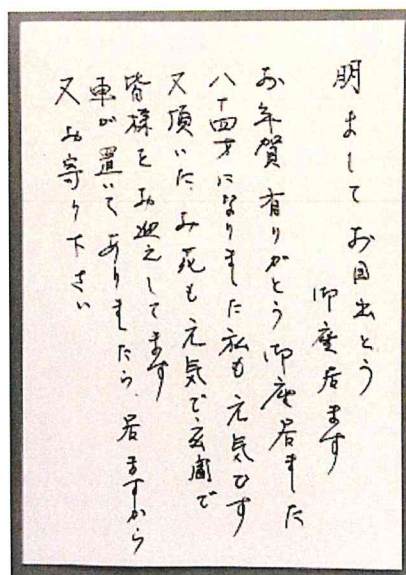
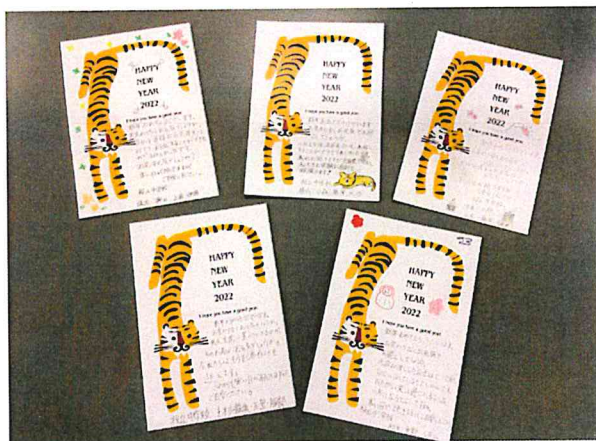
◇桜つなぐ活動（お花配り）

新型コロナウイルスの流行が落ち着いていた時期に、一人暮らしをしている高齢者宅へ訪問し交流を行いました。生徒たちが寄せ植えした鉢植えの花を渡し、相手に大変喜んでいただけました。



◇桜つなぐ活動（年賀状での交流）

お花配りの後、年賀状を作成し交流を行いました。中学校での出来事など、一言を添えて年賀状を作成することができました。



特別養護老人ホーム『つつじ苑』との交流

1. 計画・実施状況

- ・プランター・花苗・土・肥料などを購入した。
- ・以下の活動の目的を生徒に説明し、ボランティアを募った。

○地域にある特別養護老人ホームの存在を知り、自分たちで花を育て贈ることで、地域や高齢者の方、障害をもつ方への理解を深め、積極的に関わっていこうとする態度を育てる。

- ・6月21日・11月17日の2回、苗植えを実施し水やり当番等を決めて花を育てた。
- ・つつじ苑の理解を得て、7月20日・12月23日に寄せ植えプランターを生徒会代表が寄贈した。



●第1回目の花の寄せ植えプランター作り(R4.6.21)



●第1回目のつつじ苑訪問(R3.7.20)



●第2回目の年越し用寄せ植えプランター作り(R3.11.17)



●第2回目のつつじ苑訪問(R3.12.23)

2. 成果と課題

- コロナ禍を考慮し、昨年度から始めた、年2回のつつじ苑とのプランター交流が定着し、地域の福祉施設とのつながりが深まった。また学校の取組について、つつじ苑のご理解を得ることができた。
- 放送を通じて、全校生徒に取組の紹介をし、福祉への関心が高まり、12月に実施した、東京パラリンピックで活躍された石田駆さんや、2月に実施した半身に麻痺をかかえた栗木大輔さんの講演につなげることができた。
- 活動をマンネリ化させないような、企画や工夫を加えていくことの必要性がある。

【令和3年度 各務原市福祉教育推進事業 活動報告】

各務原市立川島中学校

1. 地域の方のアドバイスをもとに花壇づくり

11月中旬、プール南側の歩道沿いにある花壇に花の苗植えを実施。ボランティア委員会の生徒と、ボランティア活動の呼びかけに応えた生徒、地域ふれコミ隊のメンバーが参加。

歩道を通りかかる地域の方々が気持ちよくなるように、ひとつひとつ丁寧に植えた。

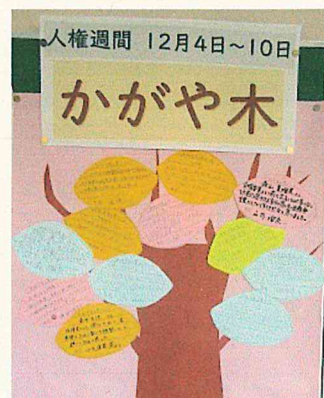
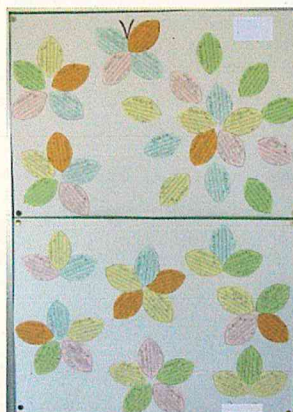
歩道を通られる地域の方より、「きれいになるね、ありがとう」と声があった。



2. あったか仲間プロジェクト

年間を通して、全校で仲間のよさを見つけ、その価値を交流していくことで、人間関係の中で生まれるあたたかさを広め、人権尊重の風土を創り出す取り組みを実施した。

4月から生徒会とタイアップして、「ふたばカード」と名付けたカードに、仲間のよい姿を記述し、各学級に掲示したり、放送で紹介したりする『よさ見つけ』の活動を継続的にやってきた。



※今年度も、新型コロナウイルス感染症防止対策のため、地域行事や学校行事が中止となることが多く地域の方々と直接ふれあう機会がなかった。

【令和3年度 各務原市福祉教育推進事業 活動報告】

各務原市立鶴沼中学校

1. 地域の方に鉢植えのプレゼント

12月、校区内にみえる高齢者の方々のお宅に訪問し、花の鉢植えをプレゼントする取組を実施しました。自ら地域の一員として参加したいと意思を表明した生徒が、気持ちを書いた手紙を添えて、鉢植えを渡しました。



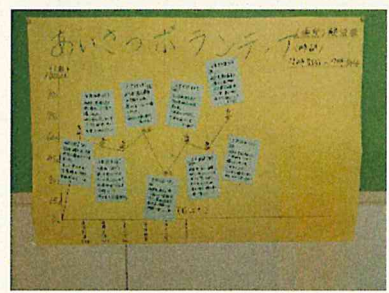
2. 落ち葉拾いボランティア

11月、校内の坂道や駐輪場、駐車場の落ち葉拾いを実施しました。生徒会執行部を中心に、70人近くの生徒が参加して、環境を整えました。



3. 挨拶運動

まん延防止等重点措置期間を除き、生徒会執行部が中心となって、挨拶活動を行いました。多い日には100人を超える生徒が集まって、「目を見て・笑顔で・自分から」挨拶することを合言葉に活気あふれる学校づくりに努めました。



4. よさ見つけ活動

自分が見つけた仲間のよさについて、その行動にこもっている仲間の思いやその価値を紙に書き、仲間へ手渡しの形で思いを伝えました。また、放送やタブレットを用いて、全員が一人一人の生徒のよさが分かるような形をつくり、人権尊重の風土を作り出す取組となりました。



令和3年度 福祉教育推進事業実施報告書

各務原市立緑陽中学校

<フラワーエンジェル活動>

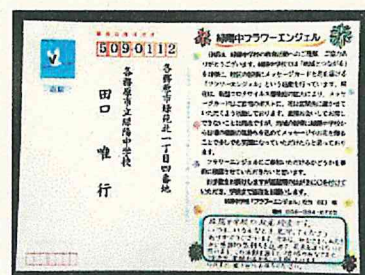
「フラワーエンジェル」とは、緑陽中学校学区で、一人暮らしをされている高齢者宅を訪問し、体育祭や合唱交流会の案内状をお届けしたり、花やメッセージカードを届けて語らいの場をもったりするボランティア活動である。本年度は、学校への招待する活動はできなかったが、12月には自宅に訪問し、花やメッセージカードなどを届け、交流を深めた。



7月、地域ごとに分かれて、高齢者の方に手紙を書きました。



福祉委員会が中心となって、活動計画立案や運営を行いました。



地域の高齢者、300人に参加案内のはがきを送付しました。



12月にクリスマスメッセージカードを作成しました。



メッセージとともに、おりがみやイラストなどを使い仕上げました。



12月23日当日、心を込めて作ったメッセージカード。喜んでいただけると有難いです。

「毎年楽しみにしているんです。」「楽しそうに登校している姿を毎朝見えています。勉強頑張ってくださいね。…」大勢の人に感謝とお礼、励ましの言葉をいただきました。



生徒の活動の振り返りから、地域の方との交流で、とても喜んでもらえたり、お礼をいただいたりしたことが嬉しかったという、ふれあいの充実感を味わうことができた様子がうかがえた。地域の方との交流から、互いが尊重し、かわり合うことの大切さを学ぶことができた。

ひびき合い活動

学校が培いたい行動力

- ・ 身近な生活の中にある不合理なことや差別事象をとらえたり、見抜いたりすることができる力。
- ・ 自己の心の中にある偏見や差別的な見方や考え方を改めようとする力。
- ・ 日常生活の中の人と人のかかわりにおける差別事象に対して、正しく行動することができる力。

今年度の重点

日常的に人権について考える機会を設けるために、年間を通じ「シリーズ人権」として、月に1回程度で人権について考える活動を設定した。

実際に発達障がいや苦しんだ経験をもつ方から、直接話を聞くことを通して、互いの違いを受け入れることの大切さを学び、日常生活の中でも互いを尊重し合い、人権意識の醸成を図った。

実施概要

蘇原中学校では、自分の個性を欠点としてとらえて自信をもてなかったり、他人の個性を欠点として非難したりしてしまう生徒がいる。本校で掲げる「自律・尊重・創造」のうちの「尊重」、違いを受け入れることができる生徒を育成するために、「靴磨き職人」市原さんの話を聞くことを通して、個性を欠点としてとらえることなく、個性を生かした生き方をすることの大切さを学ぶ。また、日常の生活でも自分や相手を大切に、自分との違いを受け入れる生き方「尊重」を実践できることを目指す活動を仕組んだ。

【日常的取組】

仲間を「尊重」することの一つとして昨年度に引き続き、学習の中での発言をしやすくするために、「自由に発言していい」「自由に質問していい」「人の発言を否定しない」の対話のルールを確認してきた。また、生徒が書いた「発言の自由を手に入れるために」を読み、世の中を良くしていくためには、伝えたいことを発信していくことが必要であり、それを妨げる恐怖心を取り除くことが必要である。そのためには、違いを受け入れていくことが大切であるということを確認した。

ジェンダーについて考える回では、性別によってこうあるべきという固定観念が、無意識の思い込み(偏見)により、相手を傷つけることがあるということを学んだり、世界と日本のジェンダーに対する意識の差に着目したりした。

【ひびきあい講話 令和3年11月11日(木)】

発達障がいについて考える回では、発達障がいの特性を強みとして仕事をしてみえる市原レオン氏の生き方から、一人一人にそれぞれの個性があり、その個性で苦しむこともあっても、他の人にはない才能(ギフト)として考えることが大切であるということを学んだ。

講話後の生徒の感想より

- ・ 世の中にはいろいろな価値観を持っている人がいるので、自分の価値観を押し付けずに相手の考えを理解する努力をしたいと思います。
- ・ 自分と価値観が違う人と出会っても否定せずに受け入れられるようになりたいと思いました。
- ・ 人と違うことは日本では、変に思われることが多いけれど、外国では特性は神様からのプレゼントであるという素敵な考え方をしているので、プラスに捉えることはいいなと思いました。
- ・ 自分の特性をよく理解して、自分が好きなことを職業にできているのはすごいなと思いました。
- ・ 自分が好きなことが人と違っていても、自信をもって自分の好きなことを貫きたいと思いました。
- ・ 障がいをマイナスと捉えず、強みとしてとらえ行動していることがすごいと思いました。
- ・ 自分と違うことをみんなで認め合っていく社会にしていきたいと思いました。
- ・ 固定観念から外れることが大切ということと強く感じました。固定観念に縛られてみんな同じことをしていても、自分がなりたいと思った自分になれないと思います。



令和3年度 福祉教育推進事業実施報告書

各務原市立中央中学校

◇ボランティア清掃

生徒会の福祉委員会が中心となって「ボランティアの日」を設定し、昼休みなどを利用して有志で校舎周辺の落ち葉を掃いたりごみを拾ったりする清掃活動を実施した。多くの生徒が参加する中で、仲間と声を掛け合い楽しみながら活動に取り組む生徒の姿が見られた。学校や地域が美しくなり、達成感や充実感を味わうことができた。



◇アルミ缶・牛乳パック回収

生徒会の福祉委員会が中心となり、各務原市の福祉活動に役立ててもらおうと、アルミ缶と牛乳パックの回収ボランティアを全校に呼びかけ、定期的に活動を実施した。福祉委員会の呼びかけに応え、大勢の生徒が協力し多くの資源ごみを回収した。リサイクル活動への意識も高まった。



◇小中合同あいさつ活動

生徒会執行部と小学校児童会が連携し、校区の各小学校へ中学生が訪問し、朝の合同あいさつ活動を実施した。生徒会と児童会の連携が深まるとともに、たくさんの笑顔と明るいあいさつの声が見られた。



◇地域の地下道清掃

ふれコミ隊による地域の地下道清掃・神社の清掃を行い、中学生と地域の方が協力して地域を美しくした。今年度は、市民運動会や地域の祭りなどの地域行事がほとんど中止になり、地域ボランティアや地域の方とのふれあいが大幅に減る中での、貴重な「ふれあい」の機会となった。

〈生徒の感想より〉

- ・地域の神社や地下道には思っている以上にゴミが多く、それを自分たちの手できれいにできてうれしかったです。掃除を終えた後の達成感を味わえました。
- ・マスクを着用して掃除をしたので、終わった後にはマスクが真っ黒になっていました。マスクが汚れた分、地下道がきれいになって、とてもすっきりしました。
- ・掃除中に地域の方にあいさつをすることができて良かったです。地域の方が通るときに「すごいね!」と言ってもらえたのですごくうれしかったし、やってよかったなと思いました。



令和3年度 活動報告書

岐阜県立岐阜各務野高等学校

活動1 西濃高等特別支援学校との交流及び共同学習

日 時：令和3年12月14日（火）

対 象：3年生福祉科 ケアワーカーフィールド 23名

本校生徒と西濃高等特別支援学校の生徒でグループを作り、生活支援技術の確認や最先端の福祉用具の活用方法について学習しました。本校生徒が事前に活用場面や操作方法についてタブレット端末でまとめたものを掲示しました。お互いに学んできたことを交流し、介護の可能性（新たな介護技術）について気付くことができました。また、相手に説明する力や生活支援技術について理解を深めることができました。終始、コミュニケーションを図りながら笑顔が絶えない交流でした。



活動2 保育技術発表会

日 時：令和4年1月27日（木）

対 象：3年生福祉科 子ども福祉フィールド 11名

本校福祉科生徒と保護者の方を対象に、人形劇や手遊びなどを見て、一緒に参加していただきました。新型コロナウイルス感染症対策のため、園児の前では発表できませんでしたが、3年間学んだ保育技術や保育実習での経験を生かして行うことができました。地元である各務原にちなんだ人形劇もあり、見ている方全員が楽しむことができました。



令和3年度 福祉教育推進事業 実施報告書

各務原市立各務原特別支援学校 高等部2年

今年度の総合的な探究の時間は、前期は6月4日から10日にかけて20時間。後期は1月14日から21日にかけて31時間行いました。2年生のテーマは「思いやり」です。高齢者や障がい者との関わり方について学習し、その不自由さに気づき自分ができる「思いやり」を考えました。

総合的な探究の時間（前期）

導入は高齢者について調べ学習。8、9日の2日間、高齢者疑似体験グッズを着けて歩いたり階段を上ったりし、関節が思うように曲げられない不自由さに驚いていました。

また、車椅子体験では、自走での操作や介助の体験でも苦戦する姿が見られました。

最終日の各務野高校福祉科とのZOOMによる交流授業では福祉科制作のDVDを視聴して質問や感想を交換しました。



車椅子の介助体験

総合的な探究の時間（後期）

後期は、聴覚障がいや視覚障がいの疑似体験から障がいによる不自由さと不自由さに対する生活上の工夫について学習を始めました。聴覚障がいでは指文字や手話体験に、視覚障がいでは折り紙体験・日常の生活体験・歩行体験などの不自由さに困惑する姿が見られました。また、視覚障がいの方を講師に招き、地域の環境、人とのコミュニケーション、仕事、余暇活動等について具体的に話していただきました。

障がい者や高齢者に思いやりのある街を考えるために、学校周辺施設でのバリアフリー体験では、車椅子利用者の立場から多くの気づきがありました。

また、「障がい者スポーツ」体験にも取り組みました。最終日には、自分にできる「思いやり」について考え、発表することができました。



手話で自己紹介



視覚障がいの疑似体験



視覚障がいの方と交流



バリアフリーかな？



アイマスクを着けて



車椅子でスラローム